経済同友

12,1

December 2011~January 2012
No.741

Contents

■2012年　代表幹事年頭見解
リスクを恐れず「実行」を 02

■特集1
経済三団体　新年祝賀パーティー
合同記者会見 04

■特集2
全国経済同友会・震災復興部会と
経済同友会・震災復興PTによる
福島県視察 12

■Close-up提言
政府関係法人改革委員会　意見書 09
委員長インタビュー　門脇 英晴 委員長
「民営化の趣旨に立ち戻り、経営の自由度を」

■Doyukai Report
中国委員会　ミッション報告 23
「『戦略的互恵関係』の実現へ向け意見交換」
第37回日本・ASEAN 経営者会議 25
「変化する世界経済情勢における
日・ASEAN 経済的パートナーシップの強化」
会員懇談会 27
「民間海外直接投資（FDI）と世界銀行の機能」
小林 いずみ 氏（多数国間投資保証機関（MIGA）長官）

■Column
巻頭言　長島 徹 01
「安全に絶対はない～もの・ことづくりの立場から」
リレートーク　菅野 健一 11
「厳島の休日」
コペンハーゲン通信 28
「EU議長国としてのデンマーク」
私の思い出写真館　深澤 恒一 30
「最高の物語を世界中のこどもたちへ」

2012年度 副代表幹事
推薦候補者の内定について 08
新入会員紹介 29

今月の表紙：世界の文様シリーズ

【カナダ・パッチワークパターン】

ヨーロッパ風のデザインです。カナダはかつて、フランス、イギリスの植民地でした。パッチワークもヨーロッパが発祥といわれています。

巻頭言

副代表幹事
もの・ことづくり委員会 委員長
長島 徹
帝人
取締役会長

「安全に絶対はない～もの・ことづくりの立場から」

「安心・安全」「高品質」「高技術」を得意とし、世界から高い信頼を得てきた日本だが、東京電力福島第一原子力発電所の水素爆発による大量の放射性物質放出やオリンパス、大王製紙における経営陣のスキャンダルによるコーポレート・ガバナンス問題によって、今は信頼を失っている。

企業の現場では、常日頃から従業員の安全確保を最優先課題として取り上げ、事故がないように教育訓練や設備更新を日々努力して行っている。しかし、それでも時として火災や爆発などの大事故から転倒、打撲、捻挫、挫傷などの小事故が発生する。人が作り上げ、動かす機械、設備、システムは、どんなに安全性が高くなったとしても、**絶対的な安全は存在しない。冷静に考えれば、これは国民の誰もがよく承知のはずだろう。**

わが社では、2004年にトヨタ自動車にお願いして、トヨタ改善方式を生産現場に導入した。最初の現場視察の際に、「ここには作業標準の神話がある」との指摘を受けた。過去に先輩が作った作業標準、安全基準を絶対視し、これらをずっと守り続ける保守的なやり方についての指摘であった。改善方式を導入したことにより、効率が上がり、品質が良くなる、物の流れが良くなるなどの効果が出てきた。しかし、一方で、ある上級作業員が自分の判断で良かれと思い、従来と異なるやり方で作業したところ、夜中に釜が発熱して真っ赤になる事故が起こった。周辺が燃え出す直前に発見され、事なきを得たが、これは技術的に事前の安全確認が必要なケースだった。**安全には変えてはならないものと変えるべきことが共存する。**

昨年11月27日のNHKのドキュメンタリー番組「NHKスペシャル シリーズ原発危機　安全神話～当事者が語る事故の深層」で、福島原発事故の原因、底に潜む問題を取り上げていた。安全に対する絶対的な思い込みによって、さらなる設備投資やシステムの進化が止まっていたのだった。「安全神話」を官民挙げて作り上げ、住民に「安全である」と説明してきたために、今さら新たな安全に対する改善策は打てないという状況であった。この番組を見て、昔、旧日本軍が犯した過ちが頭に浮かんだ。当時と同じ心理だったのではないだろうか。

原発運営に関わる政・官・事業者をはじめ、国民全体として、安全に絶対はないと理解した上で、原発の設備やシステムがより安全なものに改善されるのであれば躊躇なく投資することを共通認識とすべきであると思う。番組を通して、論理的にシビアなリスクを極限まで考えることなく、安全だと思い込む方向に心理が働きやすい情緒的な日本人のDNAを感じた。**「安全に絶対はない」ということをあらためて認識し、冷静に物事を分析する力を強化していくことで、再び世界に信頼される安全で安心な日本を築かなければならない。**